

WWFジャパン
バイオマスの持続可能性に関する
ポジション・ペーパー【解説】

WWFジャパン 森林グループ
相馬 真紀子



本日の講演内容

ー バイオマスの持続可能な利用についてー

- 持続可能性とは？
- ポジションの概要



持続可能性とは？

- 何をもって？
- どこまで？
- どうやって？



WWFジャパン バイオマス燃料と持続可能性

- 需給のひっ迫
→ マテリアル利用への影響
- 生産・流通実態への配慮が不十分
→ 森林など生態系の持続性に負の影響

バイオマス燃料の持続可能性に関する ポジション・ペーパー 2019.5

1. トレーサビリティ
2. 合法性
3. 森林減少の防止と生物多様性
4. 温室効果ガスの排出
5. その他配慮すべき事項



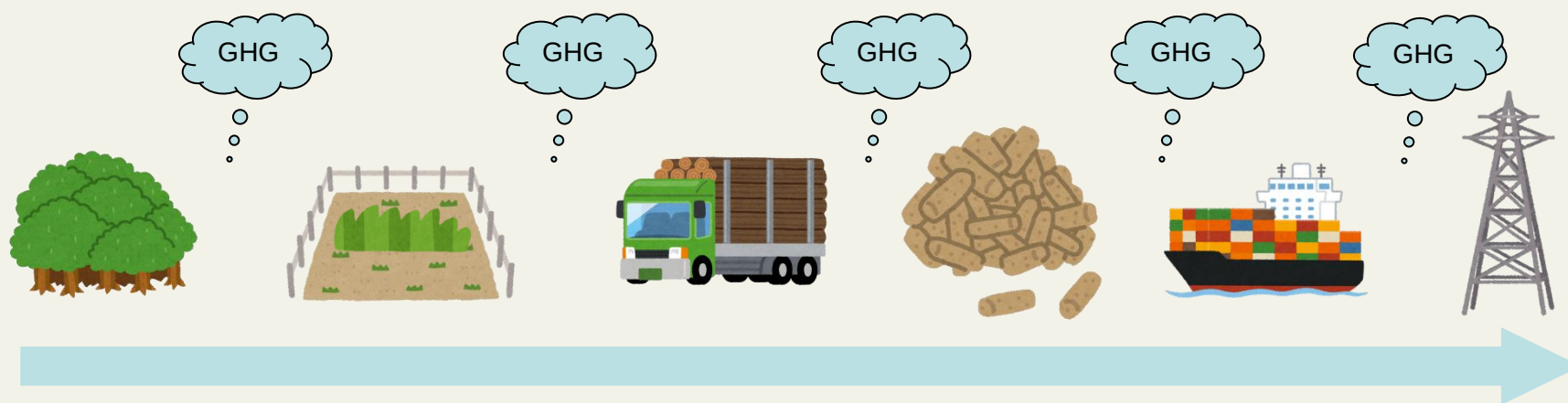
適用範囲

- 木質バイオマスとアブラヤシ
& 付随する副産物
- 主に10MW以上の発電事業者

基準 1

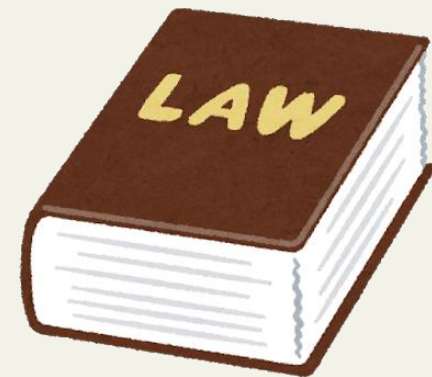
トレーサビリティ

使用するバイオマス燃料について、基準 2～5 の確認ができる精度でトレーサビリティを確立



基準 2 合法性

バイオマス燃料の原料生産およびサプライチェーンにおける森林関連法、環境関連法、社会関連法などに照らしてバイオマス燃料の合法性を確認



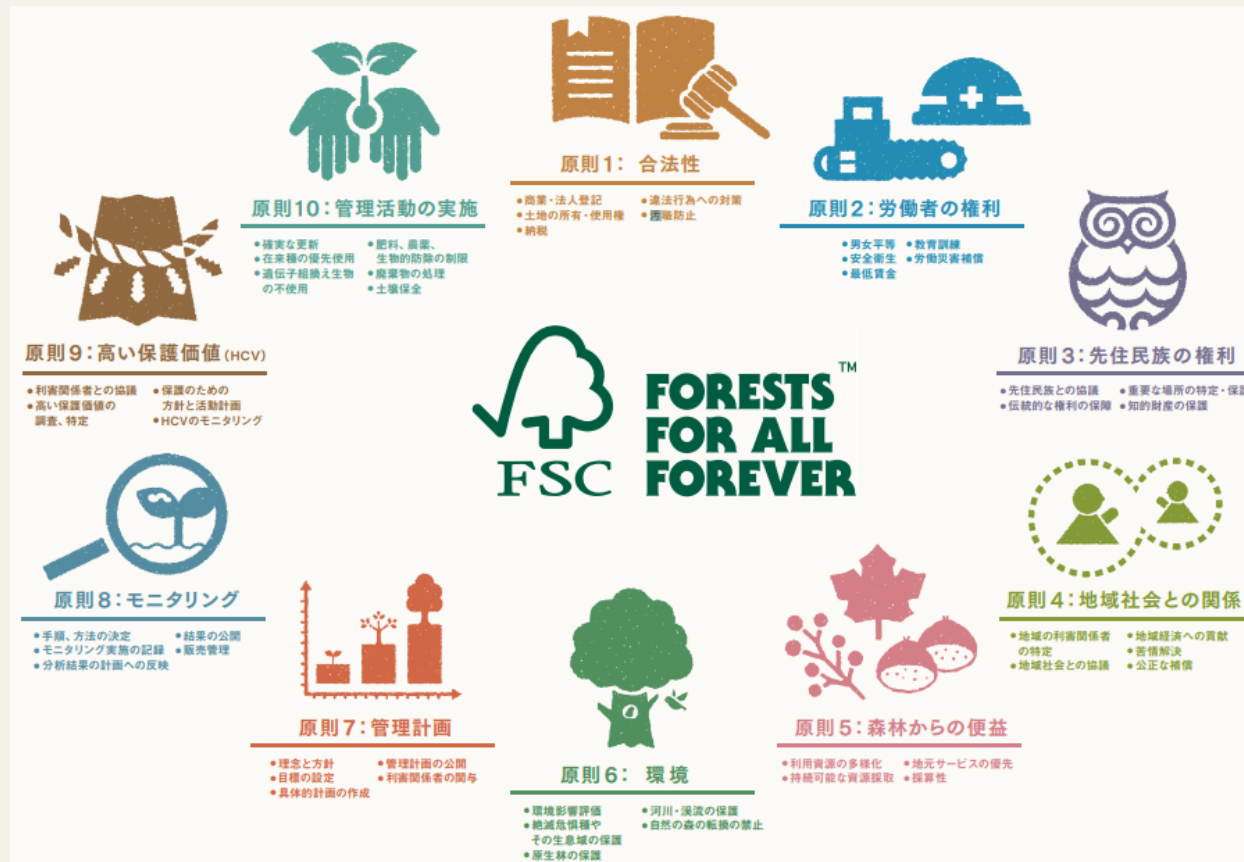
基準 3

森林減少の防止と生物多様性の保全

- 保護価値の高い（HCV）土地に由来する場合、その価値の維持 or 向上に貢献するか確認
- 泥炭地に由来しない
- 高炭素蓄積（HCS）の土地に由来しない

HCV : High Conservation Value 高い保護価値

- 生産現場の自然環境を維持し、重要な環境・社会の価値を高める

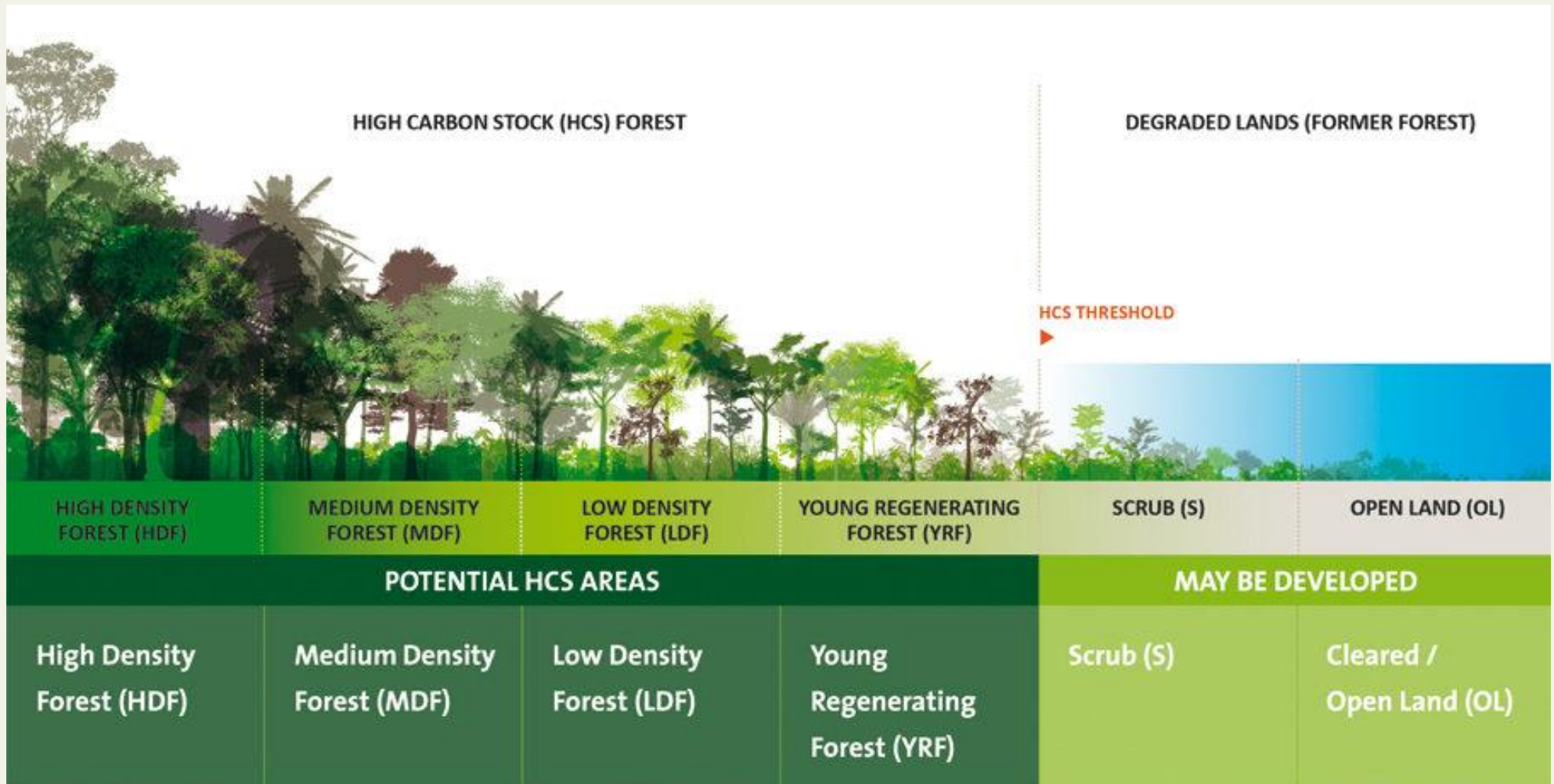




High Carbon Stock

高炭素蓄積

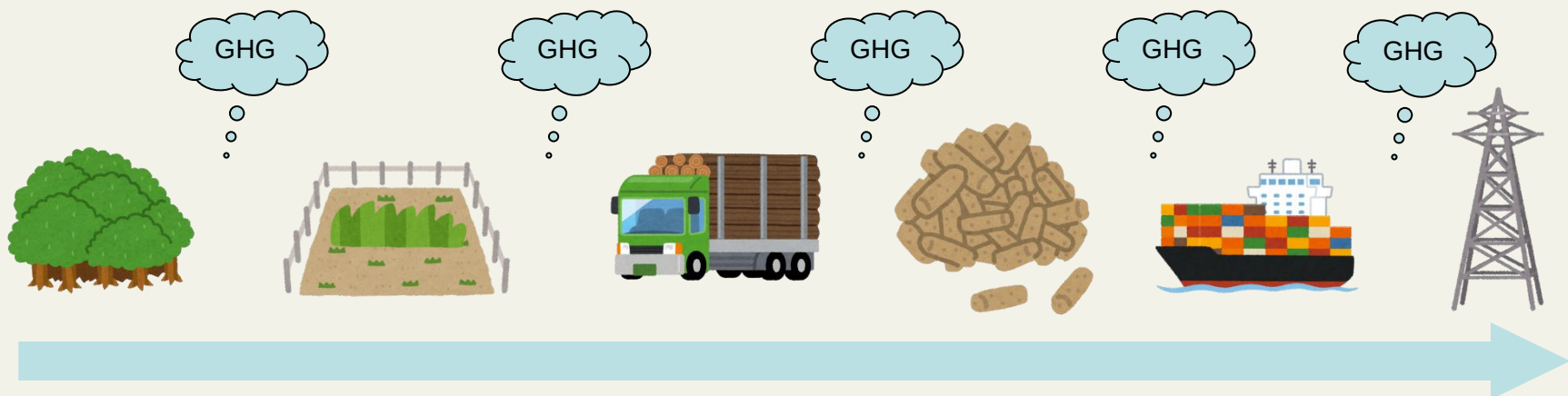
- 保護すべき森林と開発が行われうる土地を区別



基準 4

温室効果ガス削減率の基準設定と評価

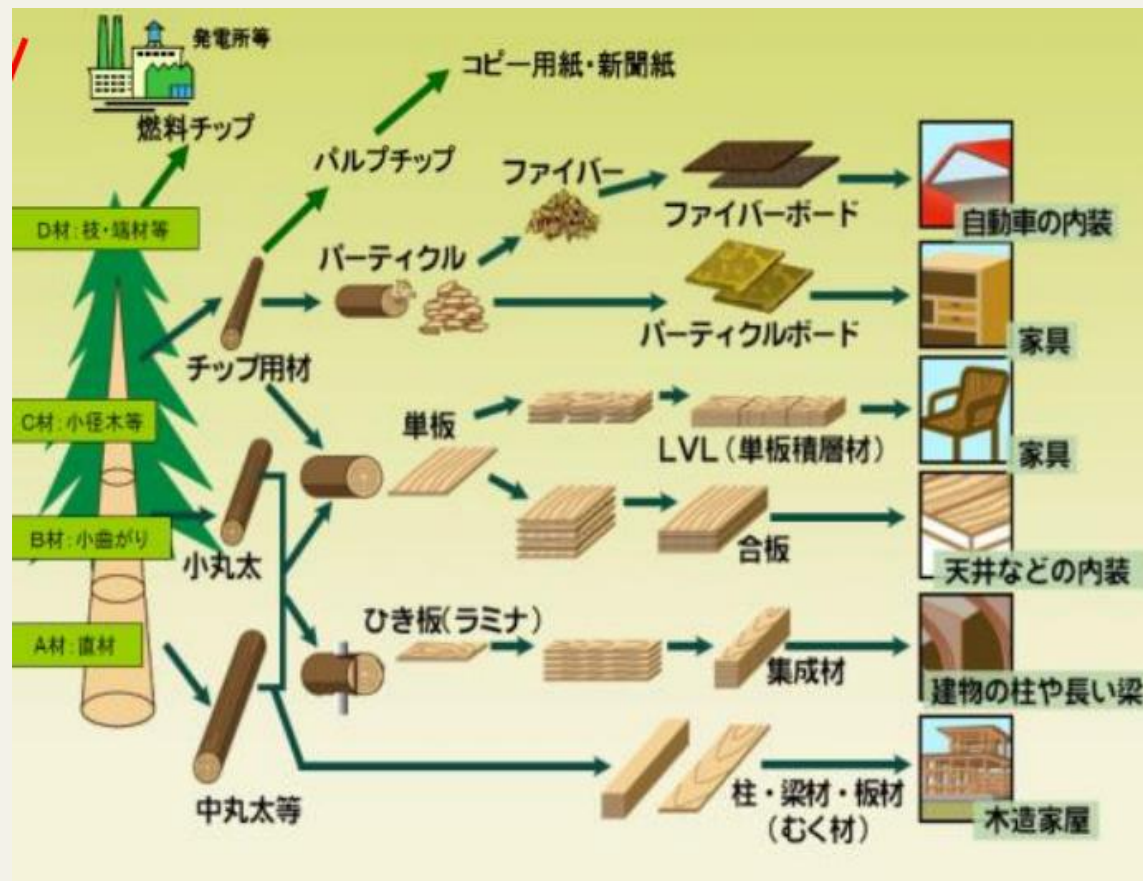
- 土地利用変化、生産、加工、輸送等ライフサイクル
- 十分なGHG削減効果を得る削減率の自主基準を設定
- 達成状況は実績値で確認し算定方法とともに公表



基準 5

既存用途との競合など

- 食料および非燃料との競合を避け、既存用途に配慮



(出典 : <http://www.crc.mie-u.ac.jp/file/3shinpo.pdf>)



ポジション・ペーパーへのリンク

- <https://wwfj.box.com/s/tg97y0wver8klzlk3hz1d762pr6zxlm8>



Thank you very much!